

報告にあたって：腹圧と頭蓋内圧の変化が、自律神経系を改善し、精神に及ぼす具体的な影響についての臨床報告

テラ自然整体院 院長 二川 敦

当院には紹介で心の病、神経系の疾患を患った患者が多数来院する。仕事のし過ぎによるバーンアウト(燃え尽き)症候群、上司のパワーハラスメントによる精神不安から発症したうつ病、脊椎側弯症の放置と仕事による多大なストレスから精神不安を起こした女性、かつて抗生物質の処方によってショックを受け、生死の境をさまよひ、そのトラウマに今も苛まれている患者。その誰もが、精神科や心療内科から処方される抗不安薬や抗うつ薬、精神安定薬を摂取している。

患者からの依頼は、薬の量を少なくしたい、具体的に身体にアプローチしてもらって、症状を少しでも改善したい。日常生活で正常な睡眠を取り戻し、健やかに仕事に復帰したいという実に切実な思いである。

とりわけ現代人は、まずストレスを感じていない人などいないだろう。そして仕事が多様化し、近年の経済状態から多くの精神不安や過重労働を強いられている人がたくさんいる。臨床の現場からは、これほど多くの人が精神系の薬を処方しているものと実に驚かされる。

そこで、キネシオテーピングとクライオセラピーの真骨頂である「**自然治癒力**」の発揮である。今回はうつ病を患った患者についての臨床報告をさせていただく。

患者が発症した背景を調べ、処方している薬、主訴は何か？それによってどのような変化が身体に起きているか。そして改善のためにフォーカスした部位、アプローチした施術方法、効果的なキネシオテーピングの貼り付け方について。

具体的には分散、偏在する腹圧を取り除き、安定した呼吸を取り戻し、それを維持すること、部分的に膨張している頭蓋内圧を均等にし安定を図ること、そしてその効果を持続させるためのキネシオテーピング療法を柱に臨床にあたった。

患者様には不安定な心の病であり、しいては自律神経系の実にセンシティブ(繊細)な症状である「うつ病」について、臨床報告作成に関して多大な協力をいただいた。この場を借りて感謝、お礼を申し上げます。

臨床の現場では患者にとって最も負担が少なく、最大効果をあげる治療を捜し求めている。今回の報告は完全ではないが、患者とともに問題解決にあたったプロセスの具体例である。

うつ病からの脱出

<症例1> バーンアウト症候群

腹圧と頭蓋内圧の変化によって自律神経系を改善し、それが精神に及ぼす具体的な影響

患者の概要:

身体状況

性別:女性 年齢:45歳
身長:156cm 体重:40kg
視力:右:0.7 左:0.7
血液型:O型
血圧:115~60

日常生活

勤務・仕事:1日1時間
毎日の運動:していない
睡眠:1日14時間
排尿:1日10回 排便:1日1回
嗜好:果物・せんべい・味噌・梅干
酒:飲まない タバコ:吸わない
腹が張った感じ:ある
風邪を引きやすい:はい

身体的な特徴: 痩せ型、薬の処方により食欲が無くなり体重減少が起きている。

職業: 漫画家(著名な漫画家の方ですが、名前を伏せるという条件で、今回臨床の症例報告に賛同していただきました。)

患者の主訴: 思考力の欠落、気力、楽しさといった活力の減退。恐怖感、不安感がムラッと湧き上がる。立ちくらみ、微熱冷え、悪寒などの自律神経失調症。首、肩の凝り、目の疲れ。

発症経過: 第一線で全力で活躍していたが、仕事が多忙を極めた5年前に高速道路走行中に急に気力が萎えた。仕事に全力を尽くしたために起こるバーンアウト症候群と自律神経失調症と見られる。

処方薬: ルポックス(抗うつ剤)
メディピース-心臓の鼓動が亢進する
メディタックス-悪夢を見ってしまう

依頼: ケミカルの薬を処方し、ある程度の症状の改善はあるが、精神科からは精神病院への入院の選択を迫られている。本人が入院はしたくないという意思があり、具体的に身体にアプローチしてケミカルの薬の量を減らし、症状を改善したい。以前ほど全力で燃え尽きるほどではないが仕事に復帰したい。

整形外科テストおよび筋肉テスト：

- Ø アダムスポジション、腹圧検査、バルサルバ、ラセーグ、
- Ø パトリック、大胸筋、菱形筋、大腰筋、腓腹筋圧迫テスト、
- Ø マーフィーバンチ、リンダーテスト、ソートホールテスト、
- Ø 頸椎圧迫テスト、頸部各種テスト、脊柱モーションパルペーション、
- Ø 脳内圧触診。

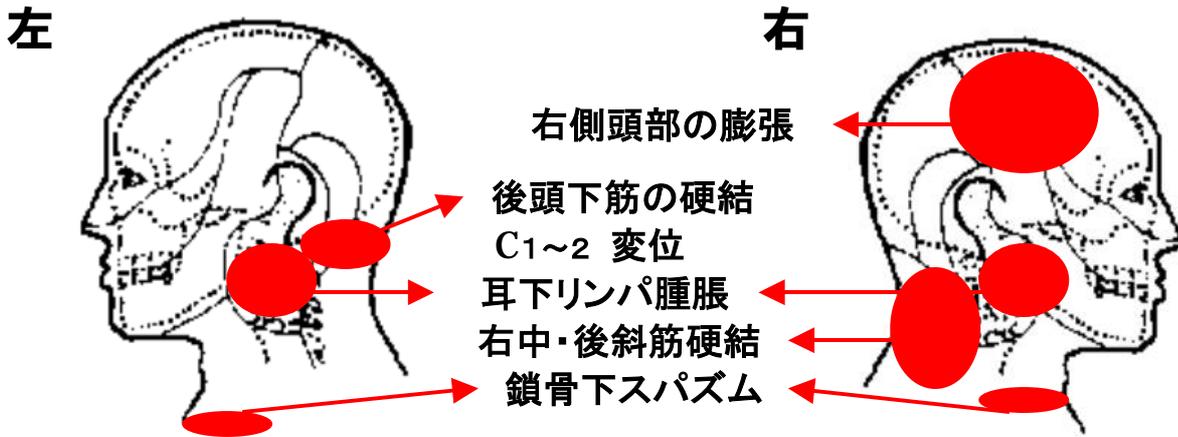
診断：左肩下がり、左大腰筋弱る。すい臓圧高い、すい臓、腎臓など左側の臓器の機能低下。腹圧が偏在している。

骨格が小さく食事量が少ない。C1～3 RPS LPS で左右にぶれて変位大きい。頸部と上僧帽筋の硬結強い。薬の摂取で顔に、にきびが出る。耳下腺リンパ腫脹。

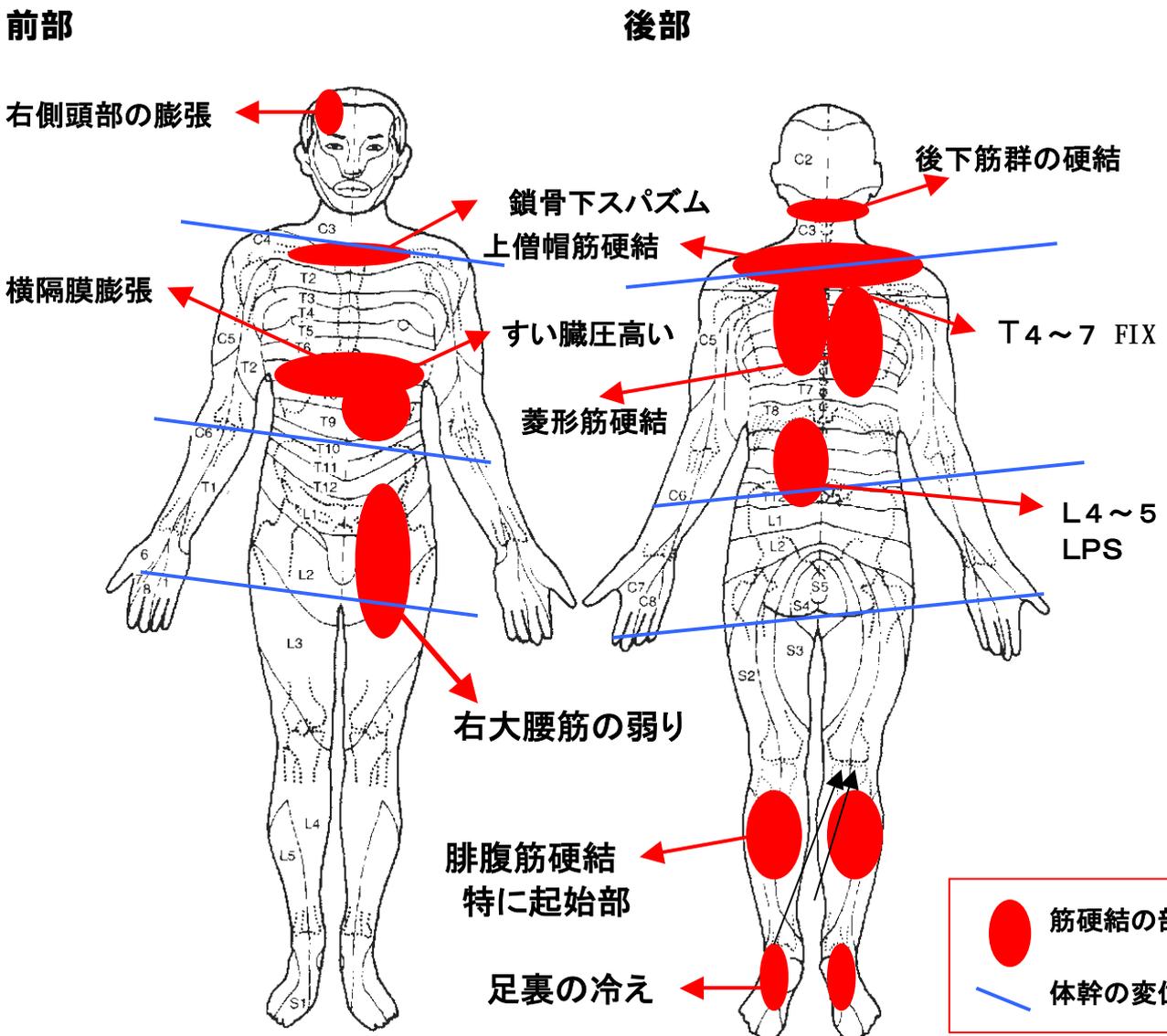
治療方針：脳内圧を下げ、偏在する腹圧を一定にする。クライオとキネシオテープの併用によって、身体の内圧に変化をもたらし自律神経系の改善を図る。その先の目的として、うつ病の改善を目指す。

体表観察と内圧検査

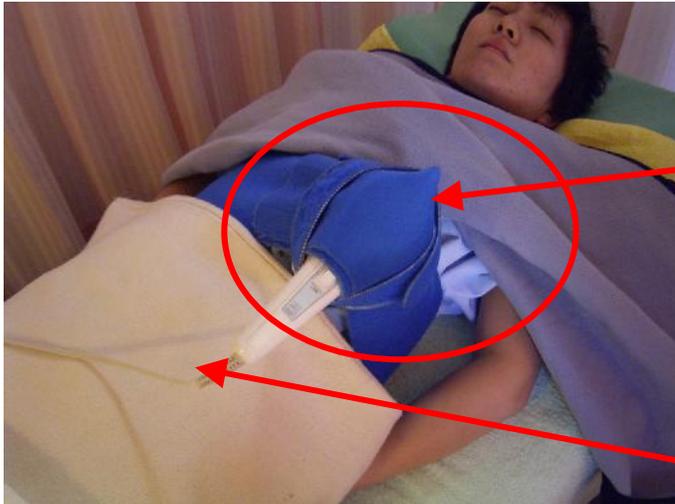
頭蓋骨の内圧偏在と頸部の変位



体幹の変位と腹圧の偏在



クライオセラピー



すい臓への直接クライオ
機能低下を起こした
すい臓を冷却
10分間

太陽神経叢への温感刺激
湿性ホットパック

クライオキャップ
頭蓋内圧の緊張を取る

目クライオ
S2枚
自律神経が弱っている
ので冷感を感じる
ティッシュペーパーを引く



スラッキングとアジャストによる手技:

腹圧の偏在を取るために大腰筋と肋間、季肋部にスラッキング、上僧帽筋、胸鎖乳突筋、頭板状筋スラッキング。側頭骨、後頭骨を中心に頭蓋骨全体にスラッキング。

上部胸椎、肋間季肋部、上部頸椎、大腰筋、胸鎖乳突筋筋膜アジャスト



頭蓋骨全体にスラッキング
頭蓋縫合部を弛緩させ
脳内圧を安定させる



頭蓋骨オステオパシー
側頭骨の反射区で、
脳内圧を調整する

内臓スラッキング
内・外腹斜筋を中心に
腹部を弛緩させる

胸鎖乳突筋筋膜アジャスト



キネシオテーピングによるアプローチ

自律神経系の改善を促すキネシオテーピング。自律神経テープの頭板状筋と耳下腺キネシオテープ、体幹部テープとの併用による腹圧と頭蓋内圧の改善しいては心の状態の改善

頸部

耳下腺πテープ
頭蓋内圧の改善と
耳下腺リンパを流す
C1~2の安定

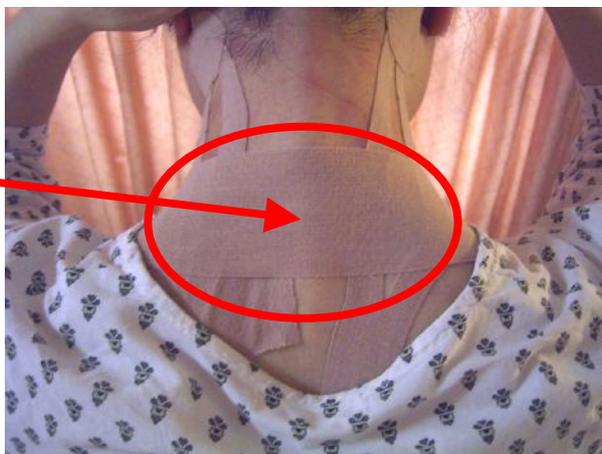


頭板状筋Y字テープ
自律神経系の安定



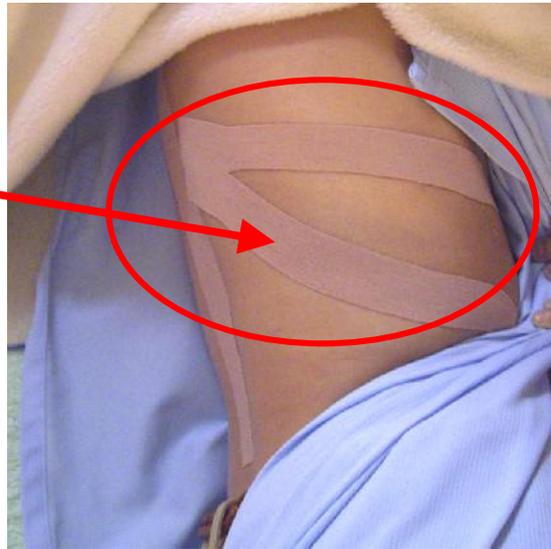
頸部後面

靭帯I字テープ
頸部のぐらつきを抑える



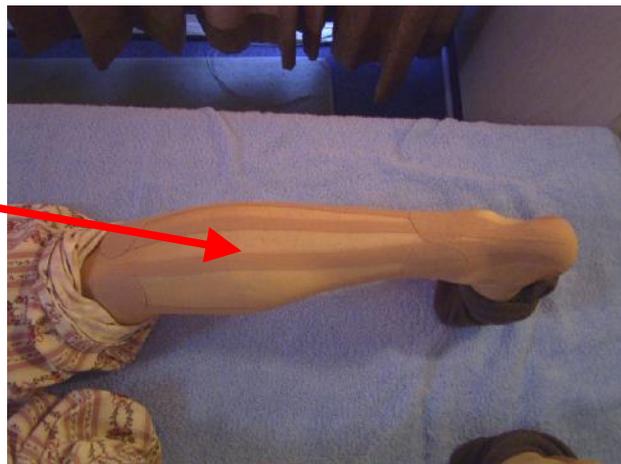
体幹部

肋間筋Y字テープ
深い呼吸と横隔膜の動きをサポート



菱形筋テープ
内蔵機能の補助と肋間の安定を図る

腓腹筋リンパテープ
免疫力を高め血流の改善



その他：横隔膜テープ、下僧帽筋テープ、脊柱テープ、足裏テープ

治療後の所見：1週間に2回を1ヶ月、その後1週間に1回のトリートメントを2ヶ月続けた。腹圧の安定と頸部の改善により、抗うつ薬、抗不安薬の処方量を半分以下に減らせることが出来た。代替医療としてのキネシオテーピングの面目躍如である。

まとめの報告：

今回登場していただいた患者は、現在、体調の変化があるときに自主的に来院してもらっているが、総じて良好なようである。

しかしこれほど社会が複雑化し、高いストレスにさらされている現代において、心のよりどころ、生命力を蘇らせる場所が当然ながら必要であり、一般の治療院にも心療内科的な役割が求められていることを痛切に感じる。

もちろん治療家は患者のプライベートな進路まで決定できるものではない。大切なのは患者がどこに向かおうとして、何をしたいのかを見極め、人生の主演としての立場を取り戻す「手助け」をすることである。

人間の自然治癒力、生命力は偉大であり、旺盛である。

その自然治癒力を発揮するには、正しい食事、栄養そして基本的な運動と健全な思考力が何よりも重要である。それを考えると、まず治療家自身が健康体であり、正しく物事を見極め、正しく判断する。小学校から言われてきた「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」という標語を、自ら実践することである。

今回は難しいと言われる精神の部分にまで、キネシオテーピングが実践的に有効なことを証明してくれた。もちろんより複雑で、心のケアが必要な患者には精神科・心療内科の医師と協力して、身体の部分から手助けすることが断然必要になってくる。

代替医療としての総合自然医学である。